

## **府中市美術館運営協議会答申書**

**— 地域における府中市美術館の運営のあり方について —**

**平成 22 年 8 月**

**府中市美術館運営協議会**

## 府中市美術館運営協議会答申内容

### 1 質問事項 地域における府中市美術館の運営のあり方について

### 2 審議における意見・要望等

#### (1) 普及事業

- ① 土曜工房（オープンスタジオ）は、100円から200円の参加費で子どもたちが参加でき、親も付添いで一緒に来館するので、素晴らしい企画と考える。
- ② 受益者負担も必要である。どこの範囲であるかを周知した方がよい。
- ③ オープンスタジオのプログラムは素晴らしい企画で、子どもたちの参加が多く、プログラム自体も小学生の子どもたちが自ら作りたくなるような工夫をしていて良い。
- ④ 体験を通して美術館を知る良い機会となり、生徒たちにも勧めることができた。おもしろいことはやってみたいことにつながり、もう一度美術館に足を運ぶようになる。
- ⑤ 小中学生への教育普及活動においては、美術館と学校とが連携して地道に活動を続けていくことで、10年スパンで効果を期待したい。
- ⑥ 府中市では、小学校と中学校、図工と美術が連携したシステムが作られており、これは他の市にはない非常にいい状況である。中学生ともなると、部活・塾などで日々忙しくなり、小学生のようにまとまって来ることはむずかしくなってくる。夏休みに自分で行って自由に鑑賞する。年齢に応じたリーフレットを作成するなど、対応がとれている。
- ⑦ 中学1年生が来館する「夏休みの企画展」については、内容を考慮していただきたい。
- ⑧ 鑑賞教室などを通して、美術館とはこんなに素晴らしいものであると体験してもらい、心に残るものにしていただきたい。
- ⑨ 鑑賞教室には目標があると思う。小学生ならば、美術館とはどういうものか、鑑賞のマナーを学ぶことができるなど。中学生は、多感の時期である、自我が芽生え、美術を鑑賞することは大切なことである。大事な時期に美術館で鑑賞することは意義のあることと思うので、鑑賞教室の充実を図ってほしい。
- ⑩ ワークショップは年間12本あり、夏休みの企画や公開制作作家などに講師を依頼したり、企画展に沿ったものなど数多く企画しており、かなり多様性のあるものになっている。開館当初より開催している人気のある企画で、無料のものから材料費程度の数百円程度を負担のものがある。1本の企画で、数回行なうものもあり、大変良い。
- ⑪ 高校生や大学生を視野に入れたり、年配の方にもさらに参加したくなるような企画を図り、さらに充実させてほしい。
- ⑫ 公開制作のコーナーが生かされていない。公開制作は府中市美術館の特徴的なものなので、内容が分かるよう、メッセージや作成期間等を表

示するようにしてほしい。

- ⑬ 美術館に来てよかったですと思う子は再度来館し、つながっていくものと思う。「生活と美術」とは、地域の人がいつでも通える美術館もある。
- ⑭ 子どもは、18歳未満を無料にするなど、ふれあう機会をふやすなどしてほしい。
- ⑮ 子ども達はどの位満足しているのか。時間をうまく利用し、低学年の子ども達や幼稚園・保育園の子ども達向けにも触れ合う機会を作っているが、さらに発展させてほしい。
- ⑯ こんなにたくさんの子どもたちが来ている美術館は、他にはないのでないかと思う。公開制作など、作家と触れ合う場があると言うことは、作家の立場からしても衝撃的であり、特に夏休みは、子どもたちが本当にたくさん来ている。
- ⑰ 小学生は「学びのパスポート」を持っているが、やはり親と一緒にでないと行けない年齢なので、保護者も取り込んだ方がよい。

#### (2) 障害者・高齢者

- ① 障害のある人でも、どんな人でも、一人でも二人でも多くの人に美術館に来て感動してほしいと思っており、気楽に来られる方法、交通機関など、広報・宣伝については、力を入れていただきたい。
- ② 老人ホームや施設の方が職員や介添えの方に付き添われて、車椅子などで来られることが多く見られ、活動のプログラムに組み込まれているように思われる。
- ③ 障害者がアートを作っている施設がある。そのような施設と連携をとって係わりある企画を作っていくのもよい。
- ④ 視覚に障害がある方の、美術の鑑賞についての企画を図ってほしい。

#### (3) 美術館ボランティア

- ① こども達などに対して一緒に回って、絵の話をしてあげられるような鑑賞ボランティアを育成して、増やすようにしてほしい。
- ② 退職した美術教諭の方々の協力を得て、解説ボランティアの育成を図るようにしてほしい。
- ③ 専門的な知識を持ったボランティアを育成してほしい。

#### (4) 広報

- ① 魅力ある美術館を宣伝し、ひとりでも多くの人に知ってもらいたい。引きつける魅力ある宣伝・広報にもっと力を入れてほしい。  
間接宣伝はお金もかからず一番の効果がある。
- ② レベルの高い人が共感するだけではなく、一般市民に興味を持たせるようなタイトル、キャッチフレーズを付けた方がよい。宣伝の仕方一つで大きく変化する。
- ③ 広告を見て、なんだかわからないポスター・チラシではなく、すばら

示するようにしてほしい。

- ⑬ 美術館に来てよかったですと思う子は再度来館し、つながっていくものと思う。「生活と美術」とは、地域の人がいつでも通える美術館である。
- ⑭ 子どもは、18歳未満を無料にするなど、ふれあう機会をふやすなどしてほしい。
- ⑮ 子ども達はどの位満足しているのか。時間をうまく利用し、低学年の子ども達や幼稚園・保育園の子ども達向けにも触れ合う機会を作っているが、さらに発展させてほしい。
- ⑯ こんなにたくさんの子どもたちが来ている美術館は、他にはないのでないかと思う。公開制作など、作家と触れ合う場があると言うことは、作家の立場からしても衝撃的であり、特に夏休みは、子どもたちが本当にたくさん来ている。
- ⑰ 小学生は「学びのパスポート」を持っているが、やはり親と一緒にでないと行けない年齢なので、保護者も取り込んだ方がよい。

#### (2) 障害者・高齢者

- ① 障害のある人でも、どんな人でも、一人でも二人でも多くの人に美術館に来て感動してほしいと思っており、気楽に来られる方法、交通機関など、広報・宣伝については、力を入れていただきたい。
- ② 老人ホームや施設の方が職員や介添えの方に付き添われて、車椅子などで来られることが多く見られ、活動のプログラムに組み込まれているように思われる。
- ③ 障害者がアートを作っている施設がある。そのような施設と連携をとって係わりある企画を作っていくのもよい。
- ④ 視覚に障害がある方の、美術の鑑賞についての企画を図ってほしい。

#### (3) 美術館ボランティア

- ① こども達などに対して一緒に回って、絵の話をしてあげられるような鑑賞ボランティアを育成して、増やすようにしてほしい。
- ② 退職した美術教諭の方々の協力を得て、解説ボランティアの育成を図るようにしてほしい。
- ③ 専門的な知識を持ったボランティアを育成してほしい。

#### (4) 広報

- ① 魅力ある美術館を宣伝し、ひとりでも多くの人に知ってもらいたい。引きつける魅力ある宣伝・広報にもっと力を入れてほしい。  
間接宣伝はお金もかからず一番の効果がある。
- ② レベルの高い人が共感するだけではなく、一般市民に興味を持たせるようなタイトル、キャッチフレーズを付けた方がよい。宣伝の仕方一つで大きく変化する。
- ③ 広告を見て、なんだかわからないポスターやチラシではなく、すばら

しいと感動するわかりやすいものが必要であり、併わせて、交通手段の確立や、そのピーアールが必要である。

- ④ 美術館のチラシやポスターは、確かにわかりにくいと感じる。文字が小さい。何を書いてあるのかわからない。訴え方、表現の仕方があるのではないか。
- ⑤ 他の美術館からも、個性的な展覧会をやっていて頑張っている！と話題性はあるようで、市民に届いていないのが残念である。

#### (5) 開館日等

- ① 「無料の日」を増やしたらどうか。魅力がないと言われているが、まずは行ってみたいと思えるように工夫してもらいたい。
- ② 開館時間を延ばす等、より柔軟な美術館の運営を考えるべきではないか。

#### (6) 地域の中の美術館

- ① 美しいものの見かた、地域に開かれた美術館、美術館に行かないと美しいものが見られないというのはおかしいと思う。日々の生活の中にもあるし、ただ美術館ができるることは、枠組みを作つて見に来てもらい、美しいものの見方、違った美しさの多様性等を、市民や一般の方たちにお膳立てし、アクセスすることのお手伝いをする場であつてほしい。
- ② 美術館に行き、小さい時から美しいものに出会い、先生や、デザイナー、学芸員などと連携しスキルアップし、子どもたちがその感性を大切にできるような企画を図つて行きたい。
- ③ 府中にあるべく、府中の作家、府中に住んでいる人の作品を見せるとか、市民の作品の発表の場にするなど地域に開かれた美術館であつてほしいと思う。
- ④ 府中市は芸術文化に親しみ、子どもを育てやすいところとの認識が高い。まずは、学校で強制的にでも連れて来るということでもいい、ここに美術館があるということが地域の誇りとなる。
- ⑤ 地域性を重要視することは、地域にゆかりのある作家の展示ではなく、「上野まで行かなくても優れた美術作品が、ここ府中で見られる。」と言つうように、優れた作品を地域の人々に展示することだと思う。
- ⑥ 地域に密着した美術館とはどのようなものか。また、生活と美術とは、美術と結びついた暮らしであると思うが、府中市美術館のイメージがつかめない。
- ⑦ 市立美術館のテーマとしては、「生活と美術」はよいのではないか。気軽に入つていける間口を作つていく、さらに周知することが大切である。
- ⑧ なぜ、美術館に来ないか、来にくいか、と考えた時、ボツンとある、駅から離れているなどがあげられるのではないか。何かをしながら美術館にたどりつくといったようなルートができると更に良い。例えば、行き帰りの途中に面白いお店・施設や、季節の花々の状況を掲載したマップがあればよい。

- ⑨ 誰でも来たいと思えるような敷居の低い美術館であればよい。
- ⑩ 子どもたちに、1点でもいい。好きな作品を見つけるようにと説明していた学芸員の言葉が印象に残る。この恵まれた環境を、大人が活かしていかなくてはならない。

#### (8) 常設展

- ① 常設展の会期中での展示替えは、評価できる。
- ② 収蔵作品の購入は、年々充実してきている。
- ③ 常設展での月1回程度のギャラリートークを行い、所蔵品の魅力を市民に伝えることもよい。

#### (9) 企画展

- ① 府中市美術館の企画展は、学芸員の優秀さと継続的な努力もあって、質の高いものが多く、全国的にも注目されている。地域の美術館としての特性を考慮しつつも、この高い水準を維持することを心がけてほしい。それはひいては地域の誇りとしての美術館のあり方にも通じるはずである。
- ② 現状の枠組みに当てはめるだけではなく、わかりやすく、親しみのもてるものを選んでほしい。
- ③ 一つの大きな展覧会があると、そこに集中して、来館者数は飛び抜けて多くなる。反対に地道で目立たないが、よい企画もたくさんある。どのような視点から、どのような企画を選んでいくのかが、重要なことである。
- ④ 映画であるとか、連続講座であるとか、よりさまざまな企画を行い、スペースをもっと利用し、美術にふれる機会を増やすことはできるのではないか。
- ⑤ タイトルしだいで入場者は増える。タイトルのつけ方は、どう心をつかむか、見てくださる方の感動をどう呼ぶかである。マーケティングをして、全ての展覧会に市民を巻き込む手立て、企画を考える。市民グループによる仕組み作りが必要と思う。
- ⑥ 小学校の場合、「企画を見て、行ってみて、よかったよ」からまわりに広がる。口コミで広がることが多いので、身近にある題材を取り上げてほしい。実際には、子どもの展覧会などで市民ギャラリーを見に行っても企画展までは行かない。
- ⑦ 難しい企画、イメージを膨らませないとわからないような企画が多い。説明（解説）が非常に難しい。やさしく目に入り、頭の中に入る企画をしてほしい。
- ⑧ 印象に残る展示、思い出に残る展示とは、五感に訴える、勇気をもらうことだと思う。物の見せ方、展示の仕方で印象が異なる。
- ⑨ 小・中学校に向けた取組みはあるが、高校生・大学生を取り込む企画を図ってほしい。
- ⑩ 高校生対象には漫画を、高齢者にはエコによる企画を取り入れことも

よい。

#### (10) 運営

- ① 最近の傾向として、展覧会を個人名でアピールするのが今の時代であり、アピールする現代的なタイトルを付けて、もしくは付けられる企画を選び、10年目、11年目につなげていくことが必要と思われる。
- ② 10年経つと美術品収集の予算も削られるようになり、10年目以降は様々な面で制約が出てくる。今まで守ってきた古いものから、枠を飛び越えた新しい企画、活動へ出て行く時期と言える。今まで築いたアカデミックな活動を、これからは柔軟に発展させていくことが必要と思う。
- ③ テレビでいう視聴率と美術館のそれとは違うと思う。アートは楽しいものであり、見た人が感動して、刺激されて、私も何か作りたいと思うものである。敷居が高くなくて、誰もが来られる場所で、「自分もできるんだ」という気持ちがクリエーターとして発展していく。府中市美術館として、一貫したテーマを作り上げていくことが必要と思う。
- ④ この運営協議会での要望や議論のあり方は、答申として市民に公開されるはずだが、次期の協議会のメンバーにも詳細に引き継がれ、継続的に協議されていってほしい。